

大宰府市短歌ポス下第百十一期入選歌

(令和三年十月七日)

選者 大久保富士子

和を以て貴しとなすの昔が教えてくゆる大宰府の街

福岡県田川郡 佐藤直

西郷が尋ねた餅の焼き加減維新の宿の由縁となりぬ

福岡市 三瓶宣和

再びと天満来たる夏の空蟬のこゑにも願ソをかける

埼玉県 増田潮実

天開の社の鈴が見あたらす柏手打てば春風渡る

佐賀県 陣内敏夫

休業の軒先にただ風鈴の音りんりんとして止まぬ夕暮れ

福岡市 斎藤真左樹

東風吹きて今盛りなる梅の花逆ゆることなくいや栄えまじ

朝倉市 井上義昭

大木の幹にからまり空高く観世の庭に咲く藤の花

大宰府市 早川亮江

炎天下観世音寺の境内に蝉の抜け殻今一人旅

福岡市 田中茂樹

手水舎の色とりどりな紫陽花に心うばわれ手洗いと心る

大野城市 前隈利子

大宰府の梅ヶ枝餅の美味しさは道真公も京を忘るる

大野城市 前隈浩佑

小・中学生の部

大宰府の梅雨後の雫可憐だとたまには紅葉色付けてみては

大阪市 福場 十三